## 矢田野校下のまいぶんマニュアル

## **★☆矢田野校下ってこんなところ!☆★**

地形/矢田野校下のおもな地形は、加賀三湖にかこまれた

台地と、その台地の背後に広がる小高い丘陵です。この丘陵は古墳時代後期 から平安時代にかけて、製陶(やきものづくり)や製鉄(鉄づくり)が盛ん だった大工業地帯です。

林タカヤマ窯跡群や林製鉄遺跡群は、 小松ドームがある場所で見つかったよ!

年表に登場する遺跡 1 / 南加賀製陶遺跡群 (矢田野校下ほか那谷・栗津校下) おもな時代は古墳時代~平安時代。

教科書の小単元は「**縄文のむらから古墳のくにへ」~「貴族のくらし」**。 ポイント①=古墳時代になると、**渡来人**がもたらした**のぼり**鷲で焼く 新しい土器 (**須恵器**) がつくられるようになりました。

ポイント②=小松市南東部の丘陵で200基以上の窯が築かれました。

中でも矢田野校下の二ツ梨町や林町では、古墳時代~

平安時代の約500年間の長い期間にわたって、須恵

器がつくり続けられます。

※製陶については普及冊子「こまつ原始・古代のものづくり」

をご覧ください。▶▶▶▶

須恵器

WEB 版ものづくり冊子



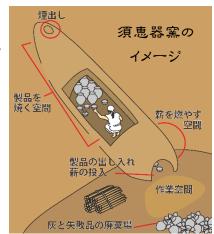
窯で焼かれたもの(うつわ以外に埴輪や瓦も焼かれました)



地形の説明 矢田野校下 の遺跡



林タカヤマ窯跡群





年表に登場する遺跡 2 / 南加賀製鉄遺跡群(矢田野校下ほか蓮代寺・木場・粟津・那谷校下) おもな時代は飛鳥時代~平安時代。教科書の小単元は「天皇中心の国づくり」~「貴族のくらし」。

ポイント=弥生時代に大陸から伝わった鉄は全国へと広まり、いよ いよ小松でも飛鳥時代頃から本格的な製鉄が始まりまし た。矢田野校下では、林製鉄遺跡群(奈良・平安時代) で、砂鉄から高純度の鉄を取り出す製鉄炉や燃料用の **炭窒**が見つかっています。



林製鉄遺跡群の製鉄炉